

クラブフォーラム IN 館林～スポーツクラブで健康づくり・地域づくり～ 開催報告

日時：平成 19 年 7 月 24 日（火）19:00～21:00

会場：群馬県館林市文化会館小ホール

本年度、最初のクラブ育成推進フォーラムが全国に先がけて館林市文化会館小ホールで開催され、館林市民、群馬県体育協会関係者、関東地区のクラブ育成アドバイザー、関東ブロック地方企画班員等 108 名が参加した。

本フォーラムは、群馬大学名誉教授内田元彦氏による「スポーツによる健康づくり」の講演、(財)群馬県体育協会植木正美氏による「関東ブロック内における総合型クラブ創設状況」についての情報提供、スポーツ健康ネットおにし梅原拓氏による「スポーツクラブで安全・安心な地域づくり」と題した事例発表のスケジュールで行われた。

講演 「スポーツによる健康づくり」

まず始めに、群馬大学名誉教授内田元彦氏から、オーストリアのドンビューで開催された第 13 回世界体操祭（13th World Gymnaestrada：4 年に 1 回開催）への参加報告を兼ねたスポーツによる健康づくりの講演が行われた。

世界体操祭では各国で取り組まれている健康活動・行事の発表が行われ、各国の健康に対する状況が把握できるとの紹介があった。また、今年の特徴として、子どもの参加が目立ち、家族的な特徴が見られたことと、女性の健康美に対するアピールが目立ったことを挙げた。これらの発表から、「健康とは、その土地に住んでいる人たちの生活習慣に入っているもの」であることや、健康に対して民族に差はないということを実感したとの報告があり、健康に対して今何ができるか、何をしなければならないかを考える必要があるとの見解が述べられた。



また、ドイツの高齢者を例に挙げ、クラブでコミュニケーションをとることが唯一の楽しみで誰にも頼らず自分で生活習慣として生きることが健康につながっていることを紹介し、日本でも、「スポーツによる健康づくりは一人だけのものではなく、みんなで手をつないで生活習慣とする環境づくりが必要である」との意見を述べられた。

情報提供 「関東ブロック内における総合型クラブ創設状況」

(財)群馬県体育協会植木正美氏による「関東ブロック内における総合型クラブ創設状況」の報告が行われた。最初に、なぜ総合型クラブなのか説明があり、平成 18 年 7 月現在の総合型クラブ育成状況を報告した。全国では 786 市区町村（1,843 市区町村中）においてクラブが育成（創設及び創設準備）されており、全国で育成されているクラブ数は 2,416 クラブで、

そのうち 1,758 クラブがすでに創設されており、658 クラブが創設準備中である（育成の割合は 42.6%）。関東ブロックに目を向けると、340 市区町村に創設準備中を含めた 287 クラブがあり、130 市区町村はクラブが創設済であることが報告された（育成の割合は 33.5%）。一方、群馬県に目を向けると、38 市町村中 13 市町村（9 市 2 町 2 村）に 23 クラブが設立（育成の割合 34.2%）されており、地域発祥型（粕川・うすね・おにし等）、スポーツ少年団基盤型（新町・朝倉）、組織団体基盤型（学校・大学・企業等）、NPO 法人（スピークス・ゆうゆう）といった特徴を持つクラブがあるという。しかし、群馬県はクラブ育成状況が全国の下位に入るため、クラブの創設、育成に力を入れていく必要があるとの報告があった。

事例発表 「スポーツクラブで安全・安心な地域づくり」

事例発表では、スポーツ健康ネットおにし（群馬県藤岡市鬼石は、国指定名称及び天然記念物である冬桜の町）の梅原拓氏が、「スポーツクラブで安全・安心な地域づくり」と題したクラブ紹介を行った。

クラブの設立について、指導者に総合型クラブ設立のアプローチをかけ、趣旨や必要性の理解を得たこと。その後、数名で小さいクラブをつくり、不足するスタッフと指導者を増やすため知人を誘いスポーツプログラマー講習会を受講してもらい、指導者兼スタッフになってもらい、徐々にクラブの設立に向けて前進していったという説明があった。その際に、年会費 500 円以外の運営資金として、月 1 回の懇親会を開き、そこで徴収した会費の残金を運営費に費やしたという特徴的な話があった。そして平成 16 年度から日本体育協会のクラブ育成支援事業の委託を請け、平成 18 年 2 月 5 日に設立記念イベントおよび総会を開催、総合型クラブとして始動した経緯が紹介された。



クラブ設立後は、クラブの特徴の一つである女子のスポーツチームの結成や、中学 3 年生を対象としたスポーツ教室等が行われているという。特に硬式野球教室は、指導者について、できるだけ先生や保護者ではなく、年齢の近い先輩や実業団、クラブチームなどで活躍している現役選手にも参加してもらおうことにしている。そして、クラブにいる間だけでなく、地域に戻った時も何らかの接点もてるように指導する側と子どもたちのコミュニケーションを大切にしながら教室を実施しているという特徴が紹介された。このことは、子どもたちが一旦クラブを離れたとしてもいつでも戻れる環境をつくり出しており、その効果が表れつつあるという。さらに、子どもと大人がスポーツを通じて世代を超えたコミュニケーションをとることが大切であるとし、総合型クラブが人とのつながりをつくるのに一番良いシステムなのではないかという意見が述べられた。

最後に今後の展開として、クラブへ戻ってきた若い年齢層に指導者、またはリーダーとなってもらい、クラブに参加するだけでなく運営をしてもらうよう人材育成にも力を注いでいく必要があるとの意見が述べられた。

（報告；関東ブロック地方企画班員 渡辺泰弘）